

平成30年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査実施日 平成30年4月17日（火）

(2) 調査の対象

国・公・私立学校小学校6年生（特別支援学校含む） 全児童

国・公・私立学校中学校3年生（特別支援学校含む） 全生徒

*特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。

(3) 浜田市での調査対象児童・生徒数 ・小学校 403名 ・中学校 427名

(4) 調査の内容

- ① 教科に関する調査
 - ・国語A（知識） ・国語B（活用） ・理科
 - ・算数・数学A（知識） ・算数・数学B（活用）
- ② 質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

2 各教科の平均正答率

(1) 小 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市-県) <昨年>	差(市-国) <昨年>	差(県-国) <昨年>
国語A	68	68	70.7	0 <0>	-2.7 <0.2>	-2.7 <0.2>
国語B	53	55	54.7	-2 <2>	-1.7 <2.5>	0.3 <0.5>
算数A	60	61	63.5	-1.0 <1.0>	-3.5 <-0.6>	-2.5 <-1.6>
算数B	46	49	51.5	-3.0 <0>	-5.5 <-2.9>	-2.5 <-2.9>
理 科	54	58	60.3	-4.0	-6.3	-2.3

(2) 中 学 校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市-県)	差(市-国)	差(県-国)
国語A	74	76	76.1	-2.0 <-1.0>	-2.1 <-1.4>	-0.1 <-0.4>
国語B	56	61	61.2	-5.0 <-3.0>	-5.2 <-3.2>	-0.2 <-0.2>
数学A	60	64	66.1	-4.0 <-1.0>	-6.1 <-3.6>	-2.1 <-2.6>
数学B	40	45	46.9	-5.0 <-2.0>	-6.9 <-4.1>	-1.9 <-2.1>
理 科	62	66	66.1	-4.0	-4.1	-0.1

3 島根県の結果の概要

- 小学校国語B、中学校国語A・国語B、中学校理科においては、全国平均並みである。
- 小学校国語A、算数A・算数B、小学校理科、中学校数学A・数学Bにおいては、全国平均を下回っている。
- 小学校国語Aでは、「書くこと」「読むこと」「言語事項」の領域で全国平均を下回った。
- 小学校国語Bでは、全ての領域で全国平均を上回った。
- 小学校算数A・算数Bでは、ほとんどの領域で全国平均を下回った。
- 中学校国語Aでは、「読むこと」で全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」は全国平均並みである。国語Bでは「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回ったが、「読むこと」「言語事項」で全国平均を下回った。
- 中学校数学A・数学Bでは、全ての領域を下回った。
- 理科では、小学校は全ての観点を下回った。中学校は全ての観点で全国平均並みであった。

4 浜田市の結果

(1) 各教科の分類別集計結果の概要

- ※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの
- －：市と県の差が2ポイント未満のもの
- △：市が県を2ポイント以上、下回るもの

① 小学校国語A

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		0				
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	1	89.8	90.8	-1.0	-
書く能力	書くこと	1	73.2	72.4	0.8	-
読む能力	読むこと	2	70.5	71.2	-0.7	-
言語事項	伝統的な言語文化	8	63.3	64.5	-1.2	-

② 小学校国語B

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		3	33.3	34.5	-1.2	-
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	63.3	65.3	-2	△
書く能力	書くこと	5	43.3	45.9	-2.6	△
読む能力	読むこと	2	53.7	51.7	2	○
言語事項	伝統的な言語文化	0				

③ 小学校算数A

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	5	57.6	58.5	-0.9	-
量と測定	4	74	73.8	0.2	-
図形	3	52	53.7	-1.7	-
数量関係	5	54.3	55.3	-1	-

④ 小学校算数B

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	6	53	55.8	-2.8	△
量と測定	4	45.7	48.8	-3.1	△
図形	2	54	55.9	-1.9	-
数量関係	5	40.4	42.8	-2.4	△

⑤ 小学校理科

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
自然への関心・意欲・態度	1	78.8	81.4	-2.6	△
科学的思考・表現	12	47.5	51.8	-4.3	△
観察・実験の技能	1	59.9	67	-7.1	△
自然事象についての知識・理解	2	81	82.7	-1.7	-

⑥ 中学校国語A

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		0				
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	69.8	74.1	-4.3	△
書く能力	書くこと	4	69.4	73.2	-3.8	△
読む能力	読むこと	4	76.0	77.4	-1.4	-
言語事項	言語事項	21	75	76.7	-1.7	-

⑦ 中学校国語B

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		3	46.4	50.3	-3.9	△
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	71.4	76	-4.6	△
書く能力	書くこと	2	27.3	31.1	-3.8	△
読む能力	読むこと	6	48.3	53.1	-4.8	△
言語事項	言語事項	1	45.7	50.1	-4.4	△

⑧ 中学校数学A

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	12	63.7	68.7	-5	△
図形	12	63.4	67.8	-4.4	△
関数	8	48	52.6	-4.6	△
資料の活用	4	59.6	63.9	-4.3	△

⑨ 中学校数学B

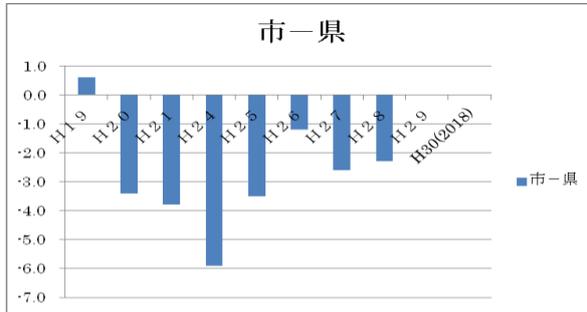
学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	3	44.6	49.1	-4.5	△
図形	6	40.0	45.1	-5.1	△
関数	3	45.7	51.1	-5.4	△
資料の活用	3	29.9	35.8	-5.9	△

⑩ 中学校理科

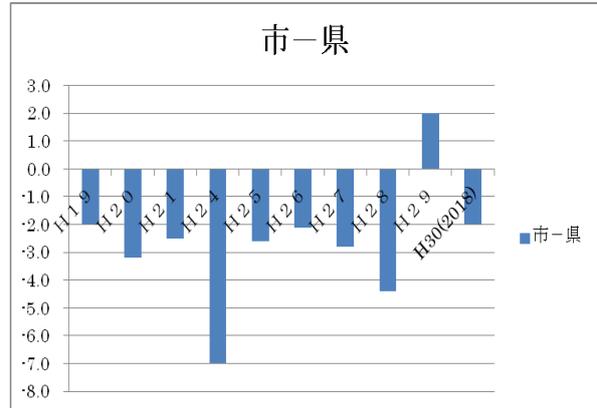
学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
自然への関心・意欲・態度	1	69.4	71.8	-2.4	△
科学的思考・表現	16	61.2	64.6	-3.4	△
観察・実験の技能	4	62.1	65.8	-3.7	△
自然事象についての知識・理解	8	63.7	68.7	-5.0	△

(2) 平均正答率の県との差の推移

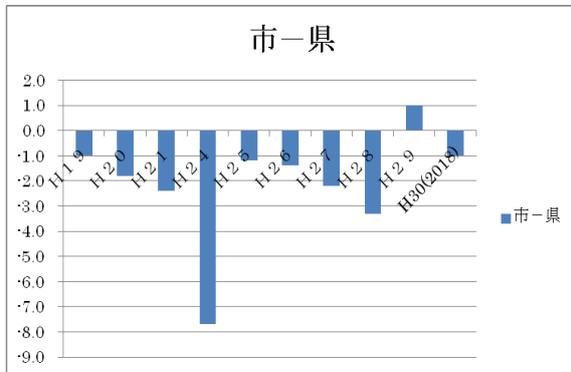
小6国語A



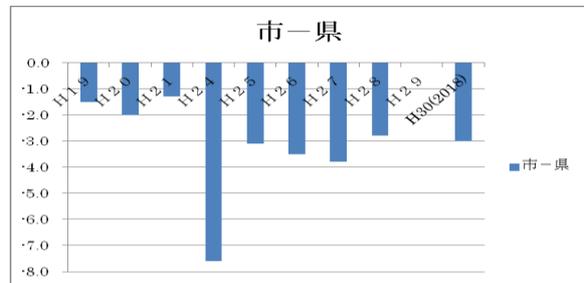
小6国語B



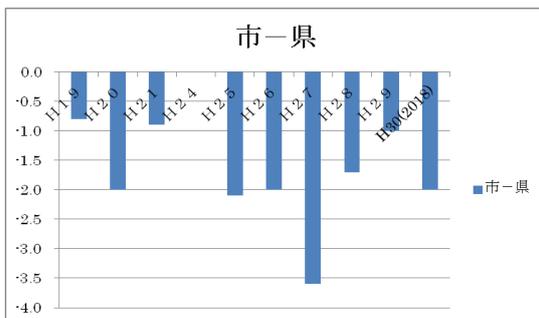
小6算数A



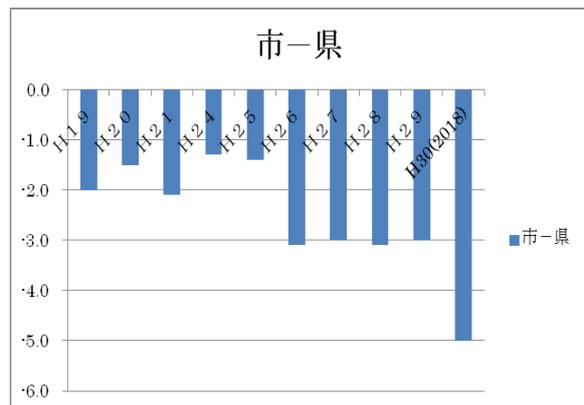
小6算数B



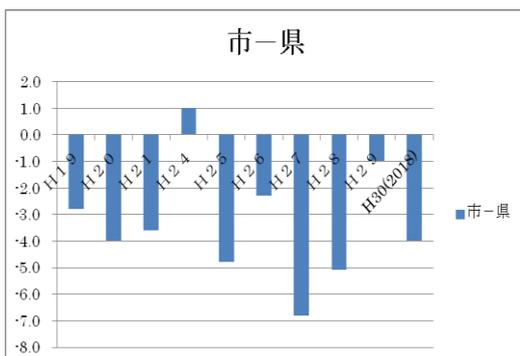
中3国語A



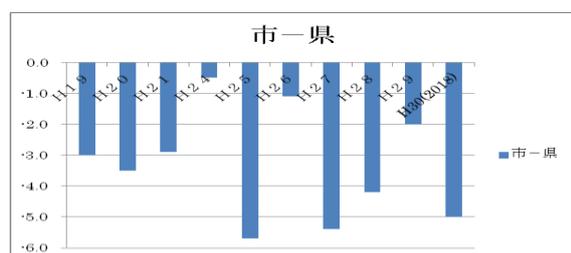
中3国語B



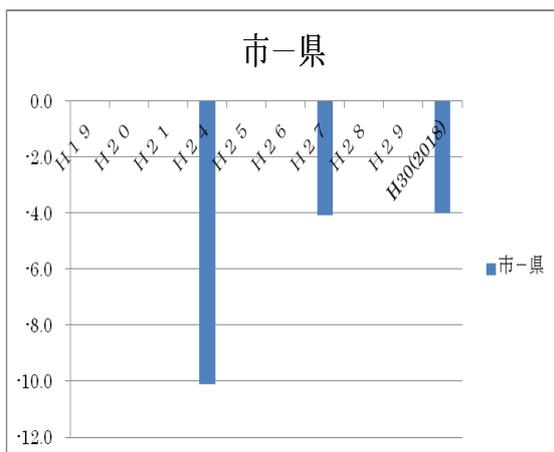
中3数学A



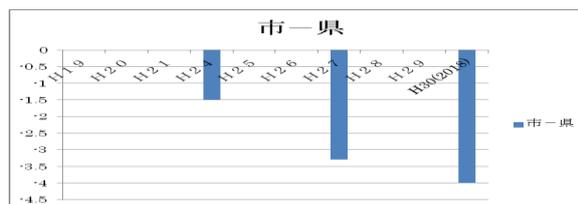
中3数学B



小6理科



中3理科



(3) 教科に関する結果の概要

国語は、小学校A 68% (県68%)、B 53% (県55%)、中学校A 74% (県76%)、B 56% (県61%)。小学校Aは全ての観点で県平均と同程度。小学校Bは、「読むこと」が2P上回ったが、他の観点は下回った。中学校Aは全ての観点で下回った。中学校Bでは全ての観点で4P前後下回り差が広がった。

算数・数学は、小学校算数A 60% (県61%)、B 46% (県49%)、中学校数学A 60% (県64%)、B 40% (県45%)。小学校Aは全ての観点で2P以下の差であるが、小学校Bは2P以上の差であった。中学校数学A、数学Bは全ての観点で下回った。

理科は、小学校理科54% (県58%)、中学校理科62% (県66%)。小学校は、全ての観点で下回り、特に観察・実験の技能が7.1Pと大きい差となった。中学校は、全ての観点で下回った。

平均正答率の推移を見てみると、小学校では、国語Aについては県平均と同等になり上向きとなってきた。国語Bは昨年度からは下がったものの、2Pの差を維持。算数Aは1Pの差に縮まっており上向きとなってきた。算数Bは、3Pの差を維持している。

中学校では、国語A、数学A、数学Bについては、横ばい。国語Bについては、差が広がった。

小学校理科では、横ばいであり、中学校理科については、-4Pと差が広がった。

記述式問題については以下の通りである。

小学校・・・国語Bでは、33.3% (県34.5%)。算数Bでは、37.5% (県40.5%)。理科では、21.3% (県25.7%)。

中学校・・・国語Bでは、46.4% (県50.3%)。数学Bでは、21.2% (県24.7%)。理科では、43.9% (県49.0%)。

全ての教科で県平均を下回っており、B問題への対応が課題である。知識・技能の定着に向けた取組を今まで通り継続していくと共に、思考力・判断力・表現力や、学びに向かう力等の育成をめざす授業改善に地道に取り組んでいく必要がある。

5 今後について

(1) 取組の方向性

A問題については、小学校の向上が見られるものの、中学校ではまだ差がある。従って、各校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、家庭学習の工夫、家庭学習の定着、配信学習プリントの活用、指導・支援が必要な生徒への指導の時間の確保等）は、今後も継続して、基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着が求められる。

B問題については、更なる指導改善が必要である。B問題対応や活用力育成のために、学校図書館活用教育等で行ってきた情報センターとしての図書館の機能を活用した学習や、各校で進めている、「主体的で対話的で深い学び」への授業改善や、活用力を意識した授業づくり（B型問題を授業に生かす等）の取組を継続していくことが一層求められる。

そして、各学校が、①「チーム学校として組織的に取り組むこと」、②授業改善の大きな視点として、「『めあてと振り返り』の質的向上（実施しているという意識は高まっている）」をめざし、「めあての共有」「めあてにかえた確かな振り返りをやり切ること」を求めている。

また、教職員が、授業改善のための時間や児童生徒に関わる時間を確保するためにも、抜本的な業務改善が必至である。「統合型校務支援システム」を導入し、業務改善を進め、校務の効率化とともに、教育の質の向上を目指したい。2020（平成 32）年度小学校新学習指導要領完全実施（中学校は 2021 年度）に向けて、「校務支援システム」等の導入をする絶好の時期でもある。

そして、「当たり前のことが当たり前丁寧に積み重ねていく」ことができるよう、学校も保護者も地域もが連携して取り組むことを求めている。

(2) 具体的な取組

① 基礎的・基本的事項の定着を図るための指導の継続

ア 各校での基礎的・基本的事項定着の取組を継続する

- ・「めあてと振り返り」＝目標・成果が明確な連続した授業づくり
- ・配信プリントの活用
- ・家庭学習の取組
- ・基礎学力定着のための取組

イ 中学校区ごとの小中連携教育での取組

- ・家庭学習の定着の一層の徹底
- ・一貫した学習規律の確立
- ・生活習慣（ネットとの適切なつきあい方等）の見直し

② 授業改善に向けての取組 → 主体的・対応的で深い学びへの転換をめざし

ア 各校での授業改善に向けての取組への支援

- ・本市の取組の良さ・価値付けをしたり、他の取組例の紹介をしたり、同じ方向で継続した取組を支援（訪問指導も含む）することで、更なる質の向上を図る。

イ 学校図書館教育を活用し、すべての教科を通して（国語、算数にとらわれることなく）、課題解決的、教科横断的な指導を行うことができるよう研修を深める。

- ・学校図書館活用教育研究指定校の設定、公開授業研究会や研修会への参加
- ・教科横断的な学習を行うためのカリキュラムの見直し

ウ 「主体的・対話的で深い学び」に関わる研修会の実施・参加

- ・協調学習研究指定校の設定、公開授業研究会や研修会への参加

- ・島根県算数授業改善指定校（周布小）公開授業への参加
- ・算数・数学研究指定校（雲雀丘小、第二中）の設定によりアドバイザー継続指導と公開授業研究会への参加

エ スーパーティーチャー示範授業研修

- ・国語、算数等の授業を元に、授業改善に向けての研修を継続。教科指導のみならず「校内研修（チーム学校として）」の在り方の研修も行い、各学校の校内研修の支援とする。
- ・中学校教員が参加しやすい日程・内容の検討

【別紙資料1】

H30(2018)年度 全国学力・学習状況調査「児童・生徒質問紙」集計から

1 《小学校》

(1) 県との差が5ポイント以上低いもの

- (1) 自分には、よいところがあると思いますか - 7
- (8) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか - 8. 1
- (10) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか - 8. 2
- (12) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか - 10. 4
- (13) 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか - 8. 7
- (20) 今住んでいる地域の行事に参加していますか - 5. 2
- (21) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか - 10. 2
- (24) 地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか - 5. 2
- (34) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか - 5. 8
- (35) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか - 5. 4
- (38) 理科の勉強は好きですか - 5. 9
- (42) 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか - 5. 8
- (43) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか - 7. 9
- (45) 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか - 7. 8
- (57) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか - 5

(2) 考 察

- クロス集計の相関関係とあわせてみると、「同じ時刻に寝る」ことで、生活のリズムが一定となり、安定した学力へとつながると考える。
- 「ふるさと郷育」として学習で地域との関わりを強くもっているが、地域行事、地域の出来事への関心が低いと思われる。
- 学習を生活に生かしたり、あきらめずに思考したりすることを大切にした授業改善に取り組んでいるが、今後も力を入れていく必要がある。学習することは楽しいと感じられるようにしていきたい。

2 《中学校》

(1) 県との差が5ポイント以上低いもの

- (16) 放課後に何をして過ごすことが多いですか
 - 学校での活動 - 11. 1
 - テレビ、ビデオ、ゲーム等 - 6. 8
 - 家族と過ごす - 6. 4
- (19) 1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか - 9. 2
- (20) 今住んでいる地域の行事に参加していますか - 10. 6
- (21) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか - 6
- (22) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか - 7. 6
- (23) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか - 5. 9

- (27) 数学の勉強は好きですか - 6. 5
 (28) 数学の勉強は大切だと思いますか - 7. 5
 (29) 数学の授業の内容はよく分かりますか - 9. 2
 (31) 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
 - 5. 7
 (32) 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか - 8. 7
 (33) 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
 - 9. 2
 (35) 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか
 - 7. 4
 (39) 理科の勉強は大切だと思いますか - 5. 3
 (40) 理科の授業の内容はよく分かりますか - 6. 2
 (41) 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか - 8. 8
 (42) 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか - 6. 1
 (43) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
 - 7. 3
 (48) 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか - 5. 9
 (49) 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか - 6
 (52) 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り
 組んでいたと思いますか - 5. 8

(2) 考 察

- メディア接触の時間が県より6. 8ポイント低くなっており、小中連携教育等での取組の成果が感じられる。
- 小学校と同様に、「ふるさと郷育」として学習で地域との関わりを強くもっているが、地域行事、地域の出来事への関心が低いと思われる。
- 学習することの意義を考え、学習の楽しさを味わえる授業展開をしていく必要がある。
- 今後も、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育てる授業改善の取組に力を入れていく必要がある。
- 学習して身に付けた力を生活や他の学習に生かせるような取組を進め、活用力を育てていきたい。

(3) 昨年（平成29）度児童生徒質問紙の分析にあった項目から

- ① 質問紙の回答状況から ※数字は割合（%）（ ）の数字は全国平均との差
- 「自分にはよいところがあると思う」と感じている児童生徒の割合は、小学校では減少となったが、中学校では増加となった。特に、中学校では、昨年度引き続き全国平均を上回ってきており、中学校全体が改善に向かっている。
- ・「自分にはよいところがあると思う」
- | | H30 | H29 | H30 | H29 | |
|-----|------------|------------|-----|------------|------------|
| 小学校 | 76.0(-8.0) | 78.5(+0.6) | 中学校 | 79.5(+0.7) | 73.6(+4.9) |
- 普段の家庭学習時間については、1日1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合は小中ともに昨年度よりも減少。しかし、平成28年度よりは上回ってきており、上下しながらも、徐々に増えている。中学校では、まだ全国よりもかなり下回っており、家庭と連携しながらの継続的取組が必要である。
- ・「普段（月～金曜日）、1日あたり1時間以上家庭学習をしている。（学習塾、家庭教師に教わっている時間も含む）」

	H30	H29	H28
小学校	61.7(-4.5)	70.4(+6.0)	58.7(-3.8)
中学校	55.8(-14.8)	59.8(-9.8)	47.8(-20.1)

○「主体的・対話的で深い学び」への転換については、下記の項目についてみると、小・中学校ともに、全国平均は下回っているものの、話し合う活動の意味や価値の意識が向上していると捉えることができる。今の方向で継続が必要である。

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができていると思う」

	H30	H29	H28
小学校	71.5(-6.2)	63.6(-4.6)	64.1(-4.2)
中学校	72.4(-3.9)	60.8(-4)	61.8(-3)

しかし、下記の項目については、横ばい状態であり、一層の改善が求められる。

- ・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」

	H30	H29	H28
小学校	71.8(-4.9)	77.8(-0.1)	75.8(-2.1)
中学校	69.0(-2.8)	71.0(-3.9)	67.6(-6.2)

○メディア接触時間については、項目がなく比較できず。

【別紙資料2】

H30 (2018) 年度 全国学力・学習状況調査 クロス集計から

1 《小学校》

(1) プラスの相関関係（質問紙で肯定的回答した子の正答率が明らかに高いもの） どの学力調査も高いもの

- (5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- (1 2) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。
- (1 8) 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。
- (1 9) 5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の
の人と関わったりする機会がありましたか。
- (2 0) 今すんでいる地域の行事に参加していますか。
- (2 1) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。
- (2 6) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。
(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見るものを含む)
- (3 3) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- (3 5) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。
- (3 7) 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題が
ありましたが、どのように解答しましたか。

(2) その他(含む考察)

○算数に関連する質問に肯定的に答えている子は、概ね相関関係にあるが、国語A問題の正答率が低い傾向にある。また、理科に関連する質問に肯定的に答えている子は概ね相関関係にあるが、算数Aの正答率が低い傾向にある。

○「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」児童は、概ね正答率が高い傾向にある。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「家で、学校の宿題をしていますか」「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。」という質問に肯定的に答えている子は、正答率が低い傾向がある。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」という質問に、「1時間～3時間」の児童は高い傾向にある。

「全然していない」「30分以下」と回答している子は「B問題」の正答率が低い。

○読書の時間が「30分～1時間」の児童は正答率が高い。国語Bは2時間以上の児童が高い傾向にあった。

○記述式問題については、最後まで努力した児童が正答率が高い。

2 《中学校》

(1) プラスの相関関係（質問紙で肯定的回答した子の正答率が明らかに高いもの） どの学力調査も高いもの

- (2) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。
- (4) 学校の規則を守っていますか。
- (6) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- (8) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- (9) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。
- (1 0) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
- (1 1) 家で、学校の宿題をしていますか。
- (1 2) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。
- (1 3) 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。
- (1 5) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書

をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- (18) 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか
- (19) 1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり, 地域の人と関わったりする機会があったと思いますか
- (21) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか
- (27) 数学の勉強は好きですか
- (28) 数学の勉強は大切だと思いますか
- (29) 数学の授業の内容はよく分かりますか
- (30) 数学ができるようになりたいと思いますか
- (31) 数学の問題の解き方が分からないときは, 諦めずにいろいろな方法を考えますか
- (33) 数学の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか
- (34) 数学の授業で問題を解くとき, もっと簡単に解く方法がないか考えますか
- (35) 数学の授業で公式やきまりを習うとき, その根拠を理解するようにしていますか
- (37) 今回の数学の問題について, 解答を言葉や数, 式を使って説明する問題がありましたが, それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか
- (38) 理科の勉強は好きですか
- (39) 理科の勉強は大切だと思いますか
- (40) 理科の授業の内容はよく分かりますか
- (41) 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか
- (43) 理科の授業で学習したことは, 将来, 社会に出たときに役に立つと思いますか
- (44) 将来, 理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか
- (45) 理科の授業で, 自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか
- (46) 理科の授業では, 理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか
- (47) 観察や実験を行うことは好きですか
- (48) 理科の授業では, 自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか
- (49) 理科の授業で, 観察や実験の結果をもとに考察していますか
- (50) 理科の授業で, 観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか
- (51) 今回の理科の問題について, 解答を文章などで書く問題がありましたが, 最後まで解答を書こうと努力しましたか
- (52) 1, 2年生のときに受けた授業では, 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいたと思いますか
- (53) 1, 2年生のときに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- (54) 生徒の間で話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることができていると思いますか

(2) その他（含む考察）

- ほとんどの項目で相関関係が見られる。
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」の質問に「全く思わない」と回答している子は数学、理科の正答率が低い。
- 「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」の質問に肯定的に答えている生徒と否定的に答えている生徒では、特に数学、理科の差が大きい。
- 「授業以外の学習時間」についても相関関係が見られるが、特に「全くしてない」生徒は正答率が大きく下がる。
- 「放課後の過ごし方」「週末の過ごし方」について読書をしている生徒の正答率が高い。10分間以下の生徒は大きく低い。
- 「家で学習の宿題をしている」「1, 2年のとき課題解決に向け考え、取組んだ」の質問に対する回答は相関関係が顕著に見られる。